



「震災から5年」主な番組

震災から5年となる3月。震災の記憶を「つなぐ」、教訓を次世代へ「つなぐ」、そして何より全国と東北のみなさんを「つなぎたい」—そんな思いを込め、NHKはさまざまな特集番組をお届けします。

総合

特集「明日へ つなげよう ～東日本大震災5年～」

放送：3月11日（金） 後0：20～13日（日）随時

震災から5年の3月11日から3日間、宮城県名取市閉上をキーステーションに、各地を中継で結ぶとともに定時番組とも連動し、NHKの総力をあげて生放送でお伝えする。

【キャスター】 畠山智之アナウンサー、伊東敏恵アナウンサー

【出演】 糸井重里 森公美子 村上弘明 箭内道彦 高橋みなみ カンニング竹山 はるな愛
サンドウィッチマン 篠山輝信 春風亭昇太 小池栄子 柳澤秀夫（解説委員） ほか

11日（金）「震災の記憶をつなげる」

東京での追悼式と被災各県からの中継を中心に、5年前のあの時の記憶を、全国の人たちに思い起こしてもらう鎮魂の日とする。夜10時から青森から千葉まで被災した50余りの市町村の5年前と現在を取材した「被災地縦断800km」をお送りする。

12日（土）「復興・支援の輪を全国につなげる」

風評被害に苦しむ福島県の被災地や、被災地を支える取り組みなど、復興や支援について考える。また「あさいち・アッキーがゆく」や「投稿DO画」「Jリーグ中継・ベガルタ仙台対鹿島アントラーズ」とも連携し、多彩な内容でお届けする。

13日（日）「若者たちが未来につなげる」

被災地の18歳の声を取り上げる「50ボイス」との連携企画など、若者をキーワードに被災地の未来を見つめる。「サキどり」も同じキーステーションから放送。

中継「三陸スマイルトレイン」

番組ホームページや交通広告、北海道・広島・福岡に設けた中継地点などで被災地へのメッセージを募集。お送りいただいた方の顔写真とともに三陸鉄道をラッピングしていく。「三陸スマイルトレイン」と名付けたこの列車は2日目（12日）に走り出し、停車駅から全国と被災地のつながりを中継でお伝えする。

こころフォトスペシャル

放送：3月11日（金）後3：40ごろ

東日本大震災で亡くなった方、行方が分からない方の写真とともに家族からのメッセージを紹介し続けてきた「こころフォト」。継続取材してきた遺族の心に迫る。

津波で夫と20歳の息子を亡くした福島県南相馬市の女性が去年末、カフェを開いた。店内の大きなテーブルには「家族と暮らした風景」が重なって見えるという。また、小学5年生で母親と弟を失い、父と二人きりになった岩手県の少年は、高校1年生となり将来の進路を選択する時期を迎えようとしている。宮城県南三陸町で防災対策庁舎の屋上に避難し、奇跡的に助かった当時の総務課長は今回、初めて取材に応じた。自宅が流され妻を失うが、震災後の町の対応に忙殺され悲しみを封印してきた。2年前、役場を定年退職。その後、悲しみは日を追うごとに深くなっていく。



【ナビゲーター】 鈴木京香

【ナレーション】 大沢たかお

Eテレ

「21人の輪 あれから5年後の子どもたち～福島 相馬市」

放送：3月19日（土）後4：00～5：00

地震と津波、そしてたたみかけるように起きた原発事故で福島県浜通りの市町村は先の見えない状況に追い込まれた。相馬市で小学6年生の姿を1年間にわたり見つめ続けた番組「21人の輪」（2011年6月～2012年5月）。あれから5年。復興の道半ばの故郷で高校1年生になった子どもたちは、どのように日々を過ごし、何を思い、自分たちの未来をどう描こうとしているのだろうか。厳しい日々を生き抜いてきた子どもたちの等身大の声を聞き、その成長と希望、揺れ動く思いを描く。 【ナレーション】相葉雅紀



BS1

BS1スペシャル「定点映像 震災5年の記録 ～被災者 心の軌跡～」

放送：3月20日（日）後7：00～8：50

NHKは東日本大震災の直後から、被災地の決まった場所を定期的に訪れ、同じポイントから同じ画角で撮影する「定点映像」を記録してきた。「定点」は岩手・宮城・福島3県で80か所余りに及ぶ。同時にその場所に思いを寄せる人たちも継続的に取材してきた。宮城県女川町では、津波で壊滅したスーパーの再建までを捉えた定点映像とともに、家族を亡くしたこの店の経営者が、町の復興に自らの“復興”を重ね合わせてきた姿を描く。あれから5年。被災地ではどのように街並みが変わり、どのように時を刻み、住民はどのような思いで過ごしてきたのか…。被災した人たちの心の軌跡を見つめる。

ラジオ第1

ラジオドキュメンタリー

「父と子の約束～気仙沼・被災地のバッティングセンター～」

放送：3月7日（月）後8：05～8：55

宮城県気仙沼市の千葉清英さん（46）。あの日の津波は、千葉さんから妻と2人の娘、それに義父母の家族5人を一瞬のうちに奪い去った。家業の牛乳販売店の再建、慣れない家事と格闘する仮設住宅の暮らし…。そんな中、千葉さんはともに助かった野球少年の息子・瑛太くんと、こんな約束を交わす。

“気仙沼にバッティングセンターを建ててやる！”

資金集めは困難の連続。しかし3年後、ついにバッティングセンターは完成した。父のバッティングセンターで野球に打ち込む瑛太くんは、中学2年となった今、甲子園出場の夢を描く。

被災地に生きる46歳の父親が、悲しみを乗り越え、自らの背中で思春期の息子に何を伝えようとしてきたのか。被災地の父と子が積み重ねた時間をたどる。



「スクランブル商店街～思いが交錯する原発から1.5Km～」 3月8日（火） 後8：05～8：55

「もう一度ふるさとににぎわいを～被災の宿 女将が迎える震災5年目～」（盛岡）

3月9日（水） 後8：05～8：55

「美しき村を取り戻すまで～原発事故から5年 飯舘村・二人の記録～」

3月10日（木） 後8：05～8：55